

主 題：アブラハムの救い3

聖書箇所：ローマ人への手紙 4章9－17節

「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。主が罪を認めない人は幸いである。」とダビデ王はこのように語りました（ローマ4：7－8）。ダビデ王は本当に幸せな者、神によって祝された者とは罪が赦されている者であると言い、彼自身そのように罪が赦されていたので、そのことを喜んでこのように語ったのです。神が罪を認めない人、これこそ最高の喜びだと。パウロ自身もこの救いのすばらしさをよく知っていました。彼はそのことをこのように語っています。Iテモテ1：13－17「私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした。それでも、信じていないときに知らないでしたことなので、あわれみを受けたのです。：14 私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。：15 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。：16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。：17 どうか、世々の王、すなわち、滅びることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄えとが世々限りなくありますように。アーメン。」、救ってくださった神への感謝を語っています。その救いのすばらしさを知ったパウロは価値観が変わりました。同じように、彼はピリピ人への手紙の中でそのことを教えます。3：8－9「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。それは、私には、キリストを得、また、：9 キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。」と、ここでも彼自身ももっていた救いに関する喜びを表わしています。「私の主であるキリスト・イエスを知っている」と言います。彼は個人的にイエス・キリストは私の主であると言い、「キリストを得」と言います。イエスを信じているということです。9節にも「キリストの中にある者と認められ」と言っています。救われているということです。パウロはこのようにイエス・キリストを救い主と信じた喜びを表わしているのです。

前回もそのことを見ました。4：8「主が罪を（決して）認めない人は幸いである。」と、二つの否定語を並べることによって、主が決して、絶対に罪を認めない人は幸いな人であると言い、イエス・キリストを信じて罪赦された人は、まさにそういう人だと言うのです。神がこんな罪深い私を救ってくださって、もう決して罪を認めないと言うのです。救いの恵みに与った私たちはそのことをもっと感謝しなければいけません。私たちはこの救いのことが分かっているようでも、もしかすると、私たちの心はまだよく分かっていないということを現わしているかもしれません。なぜなら、そのことが本当によく分かっているなら、一方的な恵みでこの救いを与えてくださった神を心から誉め称える者に変えられて行くはずですが。確かに、そのようなときがあった、でも、それが長続きしないというのは、いったい何が問題なのでしょう？救いのすばらしさを分かっていると言っている私たちに問題があると思いませんか？パウロはアブラハムを通して、また、ダビデ王を通して救いについて教えています。そのことを私たちはこれまで見て来ました。救いは行ないではない、信仰によると。パウロはそのことを繰り返して読者に教えようとしています。同じ、救いの話をして行きますが、9節からは救いは行ないではなく神からの一方的な恵みであると教え続けて行くのです。そのことを今から見て行きましょう。

☆アブラハムを通して教える救いの三つの真理

1. 信仰による救い 1－8節
2. 恵みによる救い 9－17節

9節でパウロはこのような問い掛けをしています。「それでは、この幸いは、」、これは「救い」のことです。そのことはパウロはもう前の節で話しています。「割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。」とこのような問い掛けをしています。このすばらしい救いの祝福はある一定の人々だけのものなのかどうか？ある一部の人々のためだけなのか？と。この問い掛けを聞いた多くのユダヤ人たちは、当然です、その救いは私たちだけのものとそのように答えはせずです。それには理由がありました。私たちは割礼を受けているからと、それが理由でした。そのことを知っていたパウロはそれに言及して行きます。多くの読者たちは割礼という行為によって救いと信じていたので、救いをいただいている人たちは割礼を受けている私たちだけが救われると言うのです。そのような人々がいたことはこのようにみことばが明らかにしています。確かに、ユダヤ人にとってこの割礼という行為は重要でした。使徒の働き15章にエルサレムで開かれた会議のことが記さ

れています。なぜ、あのペテロやパウロ、ヤコブなどの使徒たちがエルサレムに集まって来て会議を行なったのでしょうか？15章にその理由が記されています。15：1「さて、ある人々がユダヤから下って来て、兄弟たちに、「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない。」と教えていた。」とこのような教えがあったということです。2節には「そしてパウロやバルナバと彼らとの間に激しい対立と論争が生じたので、パウロとバルナバと、その仲間のうちの幾人かが、この問題について使徒たちや長老たちと話し合うために、エルサレムに上ることになった。」とあります。このように使徒たちはエルサレムに集まって来たのです。そして、15：5を見てください。「しかし、パリサイ派の者で信者になった人々が立ち上がり、「異邦人にも割礼を受けさせ、また、モーセの律法を守ることを命じるべきである。」と言った。」とあります。ですから、ここを見てもこの当時の人たちがどのようなことを信じ教えていたのかということが明らかです。割礼を受けることが大切であり、律法を守りそれに従って行くことが必要だと教えていたのです。ラビ、ユダヤ教の教師の礼典には次のように定められたところがあります。「アブラハムの印が汝の肉体にないなら、過越しの食事に与ることはできない」と、つまり、割礼を受けていなければその食事に与ることはできないと言うのです。また、このように教えているところもあります。「もし、ユダヤ人が墮落して神のさばきを受けなければならぬとなると、その割礼を抹殺して刑罰に入る前に、無割礼の状態に再び戻す職務を司る天使がいるのだ」と。このように割礼はユダヤ人にとって大切な行為だったのでした。

ですからパウロは、このように割礼を受けることによって救いを得ることができると思っていた人たちに、それが実は神の教えに反することなのだとすることを、もう一度、アブラハムを引き合いに出して教えようとするのです。本当に割礼が大切なのか？あなたたちが教えているように、また、あなたたちが信じているように、割礼は救いをもたらすものなのか？とそのことを教えようとするのです。ローマ書4：9の終わりからこのように記されています。「私たちは、「アブラハムには、その信仰が義とみなされた。」と言っていますが、：10 どのようにして、その信仰が義とみなされたのでしょうか。割礼を受けてからでしょうか。まだ割礼を受けていないときにでしょうか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときにです。」と。そこでパウロは、自分がどのように救われたのか、どのように割礼を受けたのか、その歴史的出来事を順に見ようとしています。

a) アブラハムの救い

創世記15：6にはアブラハムが救いに至ったことが記されています。「そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」(15：5)と、このように主のことばがアブラハムに臨んだ後、「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」と、アブラハムが信仰によって救いに至ったことが記されています。彼はこのとき何歳だったのか？ここには記されていませんが、その次の16章を見ると彼の妻サラに子どもがなかったために、サラは自分の女奴隷ハガルをアブラハムに与えて、アブラハムにこのハガルがイシュマエルを生んだことが記されています。そこには年齢が記されています。「ハガルがアブラムにイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった。」と。ですから、彼がだいたいどれ位の年齢だったのかを私たちは知ることができます。そして、今度はアブラハムの割礼のことが17章に出て来ます。17：24を見ると「アブラハムが包皮の肉を切り捨てられたときは、九十九歳であった。」とあります。アブラハムが割礼を受けたとき、彼は99歳だったのです。ですから、このみことばを見て、出来事の時間を追って見て行くときはっきりしていることは、アブラハムは割礼を受けてから救われたのではなかったということです。アブラハムは救われ、救われた後13～14年してから割礼を受けているのです。ですから、ローマ書4章でパウロが言ったように、割礼を受けていないときにアブラハムは「義と認められた」、つまり、救われたということです。そのように歴史が明らかにするのです。

では、ここで質問が出て来ます。割礼が救いをもたらさないのなら、なぜ、神は割礼を受けなさいとアブラハムに命じたのでしょうか？割礼によって神はアブラハムとの間に契約を結ばれました。割礼は契約のしるしでした。それは先ほど見た創世記17章に書かれています。そして、レビ記12章を見ると、モーセを通してそれが儀式として神によって制定されて行くことが記されています。確かに、割礼はそれによってユダヤ人を独特なユニークな民として、異邦の民と区別するものでした。イスラエル人になろうとすれば割礼が必要だったのでした。そうして、イスラエル人と非イスラエル人とを区別したのでした。もちろん、割礼はイスラエルの人々だけに行なわれていた習慣ではありませんでした。エジプト人もその他の人たちも行なっていました。でも、私たちが分かっていることは、この割礼によってユダヤ人はユダヤ人でない人々と自らを区別したということです。

b) 割礼が意味すること

ローマ書4章でパウロは割礼の目的に付いて二つのことを教えています。

1) 救われたことのしるし

4 : 1 1に「彼は、割礼を受けていないとき信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というしるしを受けたのです。」と書かれています。これは原文では「しるし、彼が受けた」となります。それは「しるし」を強調したかったからです。割礼はしるしであると、そのことを強調しようとしているのです。では、何のためのしるしでしょう？ 1 1節に「証印として」とあります。「証印」とは証拠である、証明であるという意味をもったことばです。ということは、割礼というしるしはアブラハムがすでに義と認められていた、つまり、救われていたことを証明するものであると、そのようにパウロは教えているのです。この「認められた」とか「受けた」というのは過去のことです。すでに、アブラハムはそうにされていたというのです。「しるし」はマークと訳すことができます。これはそこに何か目的があることを知ります。たとえば、先日、車で走っているとき、前の車に四つ葉のクローバーが貼ってありました。調べてみると、それは身体障害者の標識であることが分かりました。なるほどそうなのかと思いました。ですから、ルールがあるのです。このマークの車に対しては幅寄せしたり割り込んではいけないということです。そのような目的をもってマークを作ったわけです。そのようなものは私たちの周りにたくさんあります。最近では、食品のマークが話題になっています。その食品の内容を認証するマークがあります。それが貼られていると私たちはそこに何らかの目的があることを知ります。パウロは実はこの割礼というしるしには目的があると言います。それは、もうすでにこのアブラハムが救われているということをはっきりと示すというしるしです。彼は割礼を受ける前もその最中もその後も、神の恵みによって救われたことを感謝していたはずですが、なぜなら、彼の信仰によって彼は救いをいただいたからです。ですから、このように言えます。神の恵みをいつも覚えて感謝するために割礼が与えられたと。

ところが、このようにみことばが教えているにも拘わらず、ユダヤ人たちは割礼を救いを得るための手段として扱い始めて行くのです。だからパウロは、その考えが間違っているということを非難して正しく導こうとしたのです。ガラテヤ5 : 2 - 3でこのように教えています。「よく聞いてください。このパウロがあなたがたに言います。もし、あなたがたが割礼を受けるなら、キリストは、あなたがたにとって、何の益もないのです。:3 割礼を受けるすべての人に、私は再びあかしします。その人は律法の全体を行なう義務があります。」、これまで見て来たように、ユダヤ人の中に割礼によって神のご厚意を得ることができるという考えがあったのです。そのように考えている人たちに、あなたたちにはキリストによる救いは与えられないということをパウロは言ったのです。なぜなら、それはキリストの死を無駄にすることになるからと言います。同じガラテヤ2 : 2 1には「私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそキリストの死は無意味です。」とあります。つまり、パウロがここで教えていることは、もしあなたが律法を行なうことによって救いを得ると信じているなら、それはキリストがなされたあの救いのみわざに真っ向から反対することになるということです。行ないによっては救われない、ゆえに、神は救い主を送ってくださった、この救い主イエスを信じる信仰だけがあなたを罪から救い出すことができる、信仰によってのみあなたのすべての罪は赦される、神の義が与えられる、ですから、それ以外のことをもしあなたが教えるなら、あなたはこの救いから、また、祝福から遠い、それは神の教えではないからとパウロは言うのです。

割礼、それは救われていることの証拠でした。救われていることを証明するものでした。よく考えてみると、私たちが今この教会の時代にあって、バプテスマを受けることについても同じことが言えます。バプテスマを受けることによって救われる人はどこにもいません。救われている者がバプテスマを受けるのです。もうすでに、神が私のうちに為されたみわざをバプテスマという行為によって明らかにするのです。私はキリストとともに死にキリストともによみがった、生まれ変わったのだということ象徴するのが水のバプテスマです。このバプテスマという行為によって救われることは有り得ないのです。どのような行ないであっても私たちをその罪から救うことはできないのです。しかし、本当の救いは行ないをもたらします。証拠を明らかにするのです。ヤコブの手紙2 : 1 8でヤコブはこのように言います。

「さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行ないを持っています。行ないのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行ないによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」、ヤコブが言うことは、本当の救いには必ず行ないが伴うということです。救われている証拠が明らかに示されるのです。確かに、私たちが住むこの社会には道徳的な人はたくさんいます。また、聖書的知識が豊富な人もたくさんいます。信仰的と思える人や信仰的な話をする人もたくさんいます。教会の様々な行事に熱心に参加する人もいます。奉仕に熱心な人もたくさんいます。救われていると告白している人はたくさんいます。しかし、彼らが本当に救いに与っているかどうかはその人の行ない、その人の生き方が明らかにするのです。私たちが本当に救われているのかどうかというのは私たちの行ないが明らかにします。簡単に七つ挙げます。ぜひ、そのことをご自分に問い掛けてみてください。

◎救われた証拠

(1) 神を愛する = 創造主なる真の神を愛します。目で見ることにはできませんが私たちは神への愛をも

っています。神の救いに対しても感謝しているし神に喜ばれることをして行きたいと思っています。それは生まれ変わったからです。Ⅰペテロ1：8「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。」

(2) 罪を、また、この世を憎む＝これまでのように罪を愛しこの世の流れに喜んで従って行く者ではないのです。そのような自分は今もう死んだのです。残念ながら、私たちは地上にあって罪を犯さない者になったのではありません。救いをいただいても日々罪との戦いがあり、悲しいことに、その罪に敗北することもあります。でも、少なくとも、救われている者の心の中には神を悲しませる罪から離れたい、この世の流れ、価値観から離れる生き方をして行きたい、神に喜ばれる生き方をして行きたいという願いがあります。Ⅰヨハネ1：9「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」、ヤコブ4：4「貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。」

(3) 神の栄光のために生きる＝その人はいつもどうすれば神を喜ばせることができるのかを考える人です。「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をすることも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。」、そのように生きようとしている人です。

(4) 常に神の前に祈り続ける＝どんなことがあっても神に信頼を置いて祈り続ける人です。Ⅰテモテ2：1-3「そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願ひ、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。：2 それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。：3 そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。」

(5) 犠牲的な愛を実践する＝なぜなら、神の愛が自分のうちに与えられているからです。その同じ愛をもって人を愛そうとするのです。自分の好きな人だけを愛するというのは犠牲的な愛ではありません。自分が損しない程度に人を愛するというのも犠牲的ではありません。その人のために、その人の幸せのために何ができるかを考えます。そうして神の愛を示すことができます。そのような者に私たちは生まれ変わったのです。Ⅰヨハネ4：7「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」

(6) 霊的に成長する＝日々変えられている人です。神が教会を建てられた目的は神の栄光が現わされるためです。そのために神はどのような方法をとられたのでしょうか？教会という集まりを建てられ、そこに働き人を送られました。教会の歴史において明らかなように、「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。：12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、：13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです。：14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたそざれたりすることがなく、：15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。：16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」とエペソ4：11-16に記されている通りです。ということは、教会に集うすべての信仰をもっている人たちは、その中にあって成長をして行くはずですが、今見て来たように、成長することはみな繋がっています。神を愛するから、生まれ変わったからです。Ⅱコリント5：17では「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」とあります。ですから、私たちは当然、この神を喜ばせるように生きて行こうとします。救われている人は成長して行くのです。救われているかどうかを知るためには、その人は、また、あなたは本当に神を愛しているかどうか、罪をこの世を憎んでいるかどうか、神の栄光のために生きようとしているかどうか、いつも神の前に信頼をおいて祈り続けているかどうか、犠牲的な愛をもって人々を愛そうとしているかどうか、霊的に成長しているかどうか、日々変えられているか、そのように願っているかどうかです。

(7) みことばへの愛と従順がある＝ヨハネはその手紙Ⅰヨハネ2：3-5でこのように言っています。「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。」、神のみことばに従って行くというその行ないは、あなたが救われていること、あなたが神を個人的に知っていることの証なのです。続いて4節「神を知っていると信じながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちがありません。」、口で言うことは自由だけれども、神のみことばを愛してもいないし、従って行こうともしない人はその救いが疑わしいということです。ヨハネははっきりとその人は「偽り者であり、真理はその人のうちがありません。」と言っています。5節には「しかし、みことばを守っている者な

ら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。」と記されています。1ペテロ2：1-3「ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、：2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。：3 あなたがたはずでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。」

今、七つのことを見て来ましたが、ご自分に問い掛けてみてください。なぜなら、この救いは余りにも大切なことだからです。このようなことを聞きます。ある人は信仰を告白した自分の愛する人たちの生活を見ていて、もしかすると、この人は救われていないのではないかと、そのような不安を覚えるときがある、救われているという告白は聞いているけれど、その生き方を見てみると、本当に救われているのかと不安を覚えると言います。多くの人はそのようなとき、この不安や恐れを払拭するために、過去のある出来事にしがみ付こうとするきらいがあるのです。たとえば、子どものときに救いの招きに応じて前に出たとか、手を上げた、祈ったという出来事です。だから、救われているに違いないとするのです。しかし、みことばはそのようには教えていません。みことばが教えることは、本当に救われているならその人の生き方によってそれが明らかになるということです。もし、そのように考えて不安を抱えている人がいるなら、その人と話し、その人が本当に神によって救われて救いに与るように祈って行くことです。たとえば、皆さんの愛する人に病気の疑いがある場合どうしますか？ぜひ、検査を受けるように勧めます。ときには、無理やりでも病院に連れて行くかもしれません。では、どうして信仰に関しては放っておくのでしょうか？不安であれば私たちはその人にみことばを語るべきです。救いのすばらしさを語り続けて行くべきです。現実をしっかりと見つめて、その現実手に手を打つことを考えるべきです。皆さん、まだ時間があります、チャンスがあります。しかし、それらは長くはありません。なぜ、不安を抱えたまま先延ばしにするのでしょうか？

パウロが私たちに教えていることは、救われた人には行ないが伴うということです。アブラハムも信仰をもちました。そして、割礼を受けなさいという神が命じていることに従順に従いました。彼が確かに救われていたからです。確かに救われている者にはそのように救われているという明らかな証拠が伴うのです。それが割礼が与えられた目的なのです。アブラハムの割礼は神の命令に従ったことの証です。

2) アブラハムは信仰によって救われた者たちの父であることを示す

11b-12節「それは、彼が、割礼を受けないままで信じて義と認められるすべての人の父となり、：12 また割礼のある者の父となるためです。すなわち、割礼を受けているだけではなく、私たちの父アブラハムが無割礼のときに持った信仰の足跡に従って歩む者の父となるためです。」、確かに、アブラハムは人間的にいえばユダヤ人の父であると言います。ユダヤ民族はこのアブラハムからその息子イサクから出て来たと言えます。しかし、また、彼は霊的に信仰者の父であるということも言えるのです。彼と同様に、信仰によって救われた者たちの父です。パウロが言っているのはそのことです。11節の後半に「割礼を受けないままで信じて義と認められるすべての人」とあります。割礼を受けていないけれど信仰によって救われた人のことです。12節を見ると、すでに割礼を受けている人たち、「すなわち、割礼を受けているだけではなく、私たちの父アブラハムが無割礼のときに持った信仰の足跡に従って歩む者の父となるため」、つまり、割礼を受けているけれど、アブラハムと同じように信仰によって救いに与った人々と言っているのです。「アブラハムが無割礼のときに持った信仰の足跡に」倣って生きた人々です。ですから、パウロが言うことは、割礼を受けていようと受けていまいとそのどちらも、信仰をもった人々の父、それがこのアブラハムだということです。このアブラハムの信仰のことがガラテヤ3：6-7にこのように記されています。「アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです。：7 ですから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。」と。パウロは決して割礼を受けてはならないということを行っているではありません。彼は割礼を受けるとか受けないということよりももっと大切なことがあると言っているのです。それは信仰だと言います。ですから、同じガラテヤ6：15でパウロはこのように言っています。「割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なのは新しい創造です。」と。一番大切なことは、このすばらしい神の救いをいただいているかどうかだと。

見て来たように、ユダヤ人たちの関心は外的な肉体的な行為でした。パウロが、みことばが、そして、神が教えていることは、神の関心はそのような外的な行為ではなく心だということです。実は、このことはモーセが申命記の中で語っていることです。申命記30：6「あなたの神、主は、あなたの心と、あなたの子孫の心を包む皮を切り捨て、あなたが心を尽くし、精神を尽くし、あなたの神、主を愛し、それであなたが生きるようにされる。」、肉体的な割礼よりももっと大切なことがある、つまり、心の割礼が必要なのだ、心が神の前に開かれていることだと。エレミヤも同じことを言っています。エレミヤ4：4「ユダの人とエルサレムの住民よ。主のために割礼を受け、心の包皮を取り除け。さもないと、あなたがたの悪い行ないのため、わたしの憤りが火のように出て燃え上がり、消す者もないだろう。」と。

何が神の関心であるのかを見ました。もうすでに、私たちはローマ書2章でもそのことを見て来ました。2：28-29に「外見上のユダヤ人がユダヤ人なのではなく、外見上のからだの割礼が割礼なのではありません

ません。:29 かって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。」と記されていました。パウロは読者たちに何を教えようとしたのでしょうか。それは、救いをもたらすのは信仰のみ、どのような行為も救いをもたらすことはない、救いをもたらす信仰にではなく、救いをもたらさない行ないにいのちをかけることがどれ程愚かなことか、そして、救いをもたらさない行ないではなく救いをもたらす信仰を捨て去ることが、どれ程愚かで恐ろしいことか考えてみなさいということです。私たちはいったい何にいのちをかけているのかです。信仰をもたらさないものにいのちをかけることがいかに愚かで恐ろしいことなのか覚えなければいけない、パウロが教えたかったことは「救いは信仰のみだ」ということです。

確かに、割礼には意味がありました、目的がありました。でも、その割礼を受けるよりももっと大切なことは、心の割礼を受けること、すなわち、この主を受けること、あなたはそれを受けていますか？と問われているのです。どうでしょう？皆さんはこの恵み、すばらしい救いをいただいておりますか？また、同時に、神がくださったすばらしい信仰のみによる救い、この恵みによる救いを喜んでおられますか？神は私たちにできないことをしてくださったのです。こんなすばらしい救いを与えてくださったのです。